

持続可能な森林保全活動について

～和の会、明和不動産、明和不動産管理～

MIL!VE
GROUP

MENU

- ・はじめに
- ・和の会について
- ・Jクレジット活用事例
- ・ノベルティグッズについて
- ・苦勞した点
- ・この活動を通じて得られたメリット
- ・まとめ | 取り組みのポイント
- ・その他の活動について

この度はJ-クレジット先進事例勉強会という貴重な機会をいただき
誠にありがとうございます。

本会の取組内容が少しでも皆様のお役に立つことができるなら幸いです。
どうぞ宜しくお願いいたします。

和の会について

和の会（WAC）とは、(株)明和不動産、(株)明和不動産管理とお取引のある業者様からなる組織です。本会は2015年から設立し今年で8年目となります。

Jクレジットの購入を通じて熊本県阿蘇郡小国町の森林保護活動を行っています。

また、会員企業の名刺交換会や、セミナー、ゴルフコンペ等のイベントを通して会員の交流を図っています。

団体名：和の会（WAC）

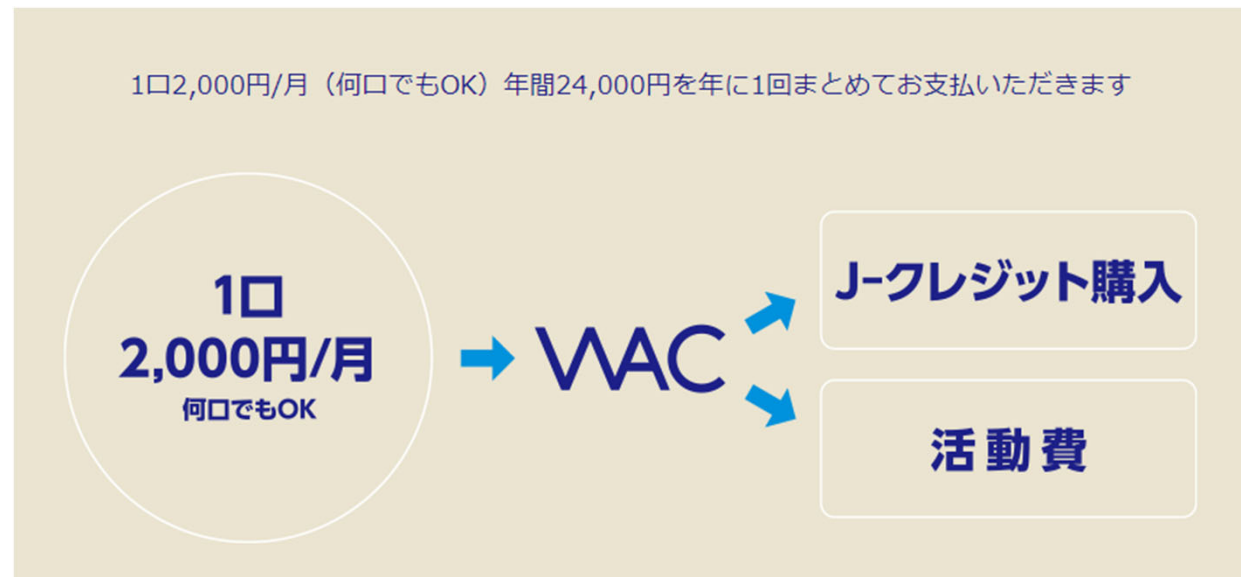
設立：2015年4月

会長：田中 裕司

住所：熊本市中央区辛島町4-35（(株)明和不動産内）

会員数：127社

Jクレジット活用事例



和の会では年会費24,000円の一部をもってJクレジットの購入及びノベルティグッズの作成を行っております。

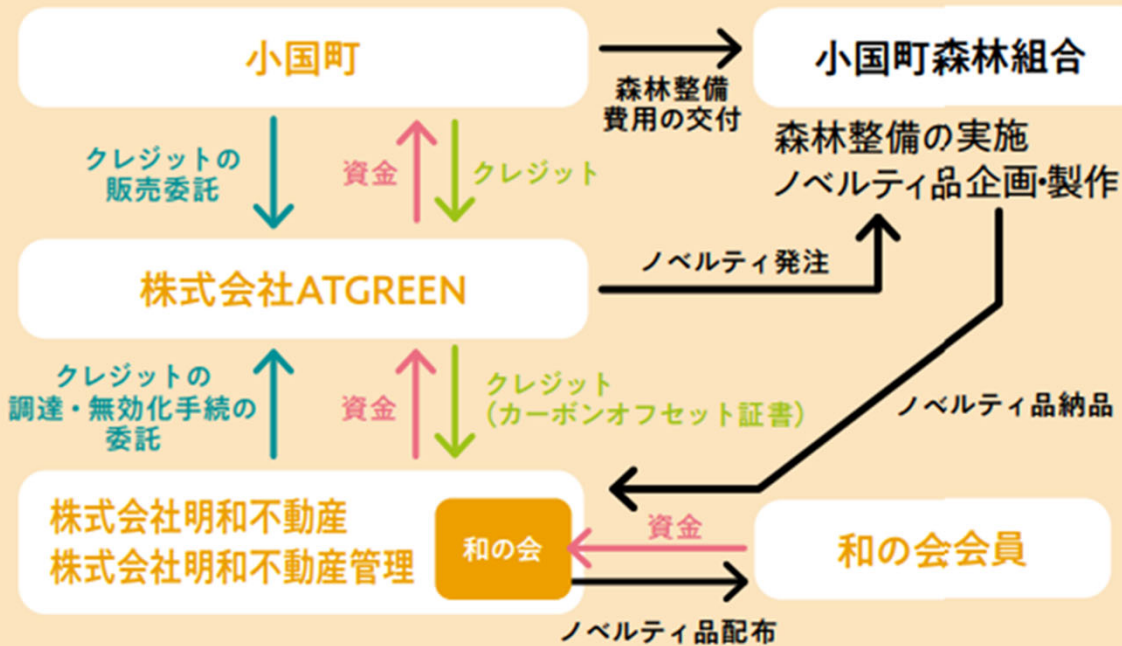
【活動の目的】

小国町有林の間伐推進活動を通じて創出されたJクレジットを調達し、**カーボン・オフセットを実施**しています。小国町は、クレジット売却益を森林組合が推進する林道整備や植林などの森林整備活動の資金として活用します。

併せて木製ノベルティ品を小国町森林組合が製作し、原資を拠出した和の会（WAC）の会員に提供することでカーボン・オフセット実施による温室効果ガス削減とともに森林整備促進とノベルティ品提供を通じて森林整備活動の効果を実感していただくことを目的としております。

Jクレジット活用事例

- クレジット収益を活用して、森林整備を推進



- 社会貢献と脱炭素の推進策としてクレジットの活用
- イベント開催や脱炭素への貢献に対する普及啓発

協定締結

【活動の流れ】

- ①事務局は和の会会員より会費を徴収する。
- ②会費の一部をプロバイダー（ATGREEN様）へ支払う。
- ③ATGREEN様にてJクレジット及びノベルティ購入の手続きを行う。
- ④ノベルティを和の会会員へ配布する

ノベルティグッズについて

○ティッシュケース（2020年作成）



○木製トレイ（2021年作成）



○木製コースター（2022年作成）



○木糸手ぬぐい（2023年作成）



Q. Jクレジット自体の購入手続きが複雑

小国町よりプロバイダーとしてご紹介いただいた(株)ATGREEN様のご協力により、和の会では資金を提供するだけでJクレジットを購入できるスキームを形成できた。

Q. 会員の皆様へ森林保全活動を実感していただくには

- ・ 会員の皆様へ木製ノベルティグッズを配布
 - 森林整備活動の効果を実感、木製素材の良さを訴求
- ・ 森林体験イベントの実施
 - 森林整備・脱炭素に対する普及啓発

この活動を通じて得られたメリット

- ・ **Jクレジットの売却益**を小国町森林整備活動に活用するという**協定**を関係者間で締結
- ・ 脱炭素に向けた取り組みとして国のプログラムの中で認められた吸収量を活用
- ・ 和の会会員にもそれぞれの貢献が明確な形で訴求
- ・ **間伐材ノベルティ品**や**森林体験イベント**参加を通して森林整備、脱炭素に対する普及啓発の実施

この活動を通じて得られたメリット

森林×脱炭素チャレンジ2023 | グランプリ受賞

○受賞式の様子



○各種メディアに取り上げていただきました。



まとめ | 取り組みのポイント

- ・ SDGsの理念とその達成に向けた具体的活動として**利害関係者が連携**している
- ・ Jクレジットを活用することで脱炭素と地域貢献・山林整備の両立を図っている
- ・ 間伐材を活用したノベルティグッズを通じて原資を拠出頂いている和の会会員へ
還元できる取り組みである

その他の活動について

・ 森林づくりへのステークホルダーの関与拡大

→明和不動産管理が管理している物件において、**オーナー様**より1部屋につき月に10円をお預かりしてJ-クレジット購入費用にあてる取り組みを強化。

お住まいの入居者様も間接的に森林づくりに協力していることを実感していただく。

お部屋探しの際に森林づくりに協力している物件を選ぶことで**一般の方**も活動に協力できる。

・ ステークホルダーと共に持続的に行う森林づくりの活動。

→相互コミュニケーションが活発となり、企業の理念も伝えやすくなる。

サステナブルな取組に賛同いただくステークホルダーが増えるということは、企業にとって良質な顧客・取引先が増加していく事にも繋がり、ひいては本業での持続的発展の礎に繋がる。

【次世代への育成】

社員や取引先、オーナー様などのご子息に対する環境保全教育や保全意識の向上に貢献する



将来の地域活動活性化

最後に

ご清聴ありがとうございました